「細くても働き続けることが大事」身近にロールモデルがいることがありがたい

学術研究院 社会科学系
准教授（経法学部）

橋本 彩
Aya Hashimoto

Shinshu University Role Model Profiles

現在の仕事

法学の中でも税法を専門とし、個人に対する所得課税、特に所得獲得活動によって生じた支出の税法上の取扱いを研究しています。大学や大学院における高等教育によって蓄積される人的資本をいかに税法上に反映させるかという観点から研究を進めています。人が能力を高める行為に対する公平・中立的な税制を実現することで、生涯にわたる学び直しを税制面から後押しできると考えています。法という社会のルールを研究するものであるため、唯一の正解は存在しません。より望ましい社会のルールがどうあるべきか、ゼミの学生と議論できる時間が、とても楽しく有益な時間となっています。

今の自分があるのは

仕事を続けるうえで最も影響を受けたのは、中学時代の友人の母親です。今でも時折、相談にのってもらい「細くても働き続けることが大事」と助言をいただきました。ご本人も今なお現役で働かれています。子どもがいると思うように進まないことも多い中、低空飛行でも、公表できる論文数が少なくても、なんとか研究を続けてこられたのは、この言葉のおかげが大きいと感じています。また、職場の同性・同年代の研究者の存在も心強く、子育ての悩みを共有したり制度の情報交換をしたりと助けられました。きちんと業績を残されている姿など、身近に参考となるロールモデルがいることが、私にとって何よりありがたく思います。

今後の展望

在外研究に出るタイミングに悩んでいます。法学では、比較法による研究が盛んなため比較対象国に1年ほど滞在することが一般的で、私もアメリカでの研究を望んでいます。子どもが小さいうちは研究時間の確保が難しいのではと先延ばしにしてきましたが、大きくなれば今度は、学校をどうするかなど悩みが尽きません。子どもを産むときも同じように迷ったことを思い返すと、心配は尽きないものだと実感します。とはいえ「案ずるより産むが易し」で、いざその状況になれば何とかなるものだとも思っています。

Charlottesville：アメリカ合衆国
研究者の先輩の在外研究先にお邪魔させてもらったときのもの

Message 後進の女性研究者や大学生、高校生のみなさんへ

学生時代に、もっとコミュニケーション力を磨いておけばよかったと感じています。文系の研究者は一人黙々と文献を読んでいるイメージがありますが、学会報告など、コミュニケーション能力の重要性を痛感することは意外と多くあります。また、さまざまな生き方を選んだ友人と話す時間は、自分の視野を広げるうえでとても大切だと思っています。卒業から20年も経つと、独立開業した人、転職を重ねた人、専業主婦（夫）になった人など本当に多様です。就職後の人間関係では利害を考えてしまいがちですが、そうしたことを気にせず話せる学生時代の友人は、とても貴重な存在です。ぜひ、今の友人関係を大切にしてください。

子育ては心配も多いが
微笑ましいことも多い